

No. 62

2025年8月号



TICO

季刊ニュースレター

Newsletter

Face
to
Face

TICOの代表が交代しました。

初代：白石吉彦（1993年11月23日～）、2代目：三村誠二（1998年12月19日～）、3代目：吉田修（2003年2月2日～）NPO法人化し、代表理事として21年間活動が続けて参りました（→退任挨拶P2）。そして、2025年5月18日の総会で4代目となる新代表：渡部豪が決定し、6月2日に就任しました。

新代表挨拶

渡部 豪
わたなべ たけし

特定非営利活動法人TICO代表
よしのがわ往診診療所 医師



厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

本年6月からTICOの代表理事に就きました渡部豪です。これまで理事として、TICOの事業に携わってきましたが、このたび吉田修先生から代表を引き継がせていただきました。大任に身が引き締まる思いです。

地球の温暖化、紛争の多発、新しい感染症の流行など、2020年代世界は目まぐるしく変化しています。その中であって、私たちTICOは国際協力団体として、少しずつでも地球を、地域を善い方向に向けていく努力を続けていきたいと思えます。どうか引き続きのご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

CONTENTS

- 1 新代表挨拶
- 2 TICO理事長 辞任のご挨拶
- 3 }
5 カンボジア事業報告
- 6 ザンビア心臓血管外科
手術技術移転事業
- 7 ザンビア
今世紀最悪の干ばつ
- 8 会員募集とご寄付のお願い

吉田 修

よしだ おさむ

特定非営利活動法人TICO前代表
さくら診療所 医師



TICOが”徳島で国際協力を考える会”という勉強会でスタートして30年以上経ちました。国際協力では、ザンビア、カンボジアを中心に様々なチャレンジを行い、また国内の災害にもできるだけの対応をしてきました。第一線で活躍する多様な分野の講師を招いての”地球人カレッジ”や学生達とのTICO合宿やスタディーツアーも本当に面白かった。

この間、何とかTICOの財務や人材面での強化を図ろうとしてきたつもりですが、私の力量不足で助成金頼り体質からは抜け出せないまま＝プロジェクトの終了時に撤退しなければならない状態です。バブル崩壊から失われた30年、日本の国際社会での立ち位置もどんどん下がり、ODAも縮小していきました。

TICOの活動は、相手方の自立を促進することを原則とし、プロジェクトの持続可能性を常に念頭においていましたが、現実には、経済的な裏付けのない活動の持続可能性は甚だ疑問です。農村の保健ボランティアたちも、無給で村のために活動していますが、TICOが抜けると、ノートやペンの支給やユニフォームの更新がない、次世代の研修ができない、などが起こり得ます。

企業的なマインドを取り入れて、経済活動を行い収入を得つつ実施するような事業を計画するべきだと思うようになりました。

ケニア・ナッツ・カンパニー創設者 佐藤芳之さんのことを知り、ああこれだ！

『歩き続ければ、大丈夫』

—アフリカで25万人の生活を変えた日本人起業家からの手紙—

佐藤芳之著

さて、地球温暖化は思っていたよりも急速に深刻化しています。この夏の暑さ！残念ながら始まったばかりなのです。

ザンビアをはじめアフリカの広い範囲で雨量の減少から旱魃が頻発、農民は仕方なく木を伐採して炭を作って売っています。急速に森林が減少し、ますます乾燥化・砂漠化が進んでいます。これは遠いアフリカの問題ではなく人類全体の問題です。アフリカの森林がなくなれば地球環境は危機的な状況になるでしょう。

それでも地下水源はまだ未開発で余力が残っています。井戸を掘り、ソーラ発電＋直流ポンプで小規模灌漑農業を始めれば相当な生産性・収益が期待でき、設備投資分が回収できれば次に投資できます。生活に余裕ができれば井戸周辺から植林も始められるでしょう。成功モデルを作って普及させ、森林破壊を食い止め、砂漠化から緑化へ転換する。キーワードはネイチャーポジティブ！自然を回復させる方向の経済活動です。（世界の企業はネイチャーポジティブであることを開示しないと投資家から評価されない仕組みができています。TNFD）

収益を上げながら拡大するというやり方は、これまでのTICOにはややそぐわないようです。私ももうすぐ67歳になり、アフリカでの新事業としてはラストチャンスと思っています。TICO理事長を退任し、一般社団法人「グリーンアフリカ」を設立し心機一転、この事業に集中して残りの人生を「次の世代のために」楽しもうと思います。

TICOを支援してくださった皆様、理事会の皆様、大変お世話になりました。目指すところは同じです。これからもお互い切磋琢磨しより良い世界を作っていきましょう。

吉田 修

カンボジア事業

JICA草の根技術協力事業

2022年9月から3年間実施したカンボジアでのJICA事業ももうすぐ終了です。

国境でタイとの衝突が生じたことで、国境近くのバタンバン州の医療従事者も戦闘区域に送られ、最終の研修にも影響が出るどころでした。戦争は失うものが多いです。現地の皆さんも、もちろん、私達も心から平和を願っています。

TICOでは「救える命を救う」というミッションを胸に、バタンバンの救急医療に携わる医療従事者に研修を重ねてきました。当事業で育成したインストラクターたちはすでに各地で指導を実践し、技術の向上のために活躍しています。

大きなインパクトを与えた事業となったのは、皆さまのおかげです。講師やスタッフだけでなく、派遣を日本国内で支えた人たち、コロナ禍でも来日研修で受け入れてくださった各位、実に多くの人に支えられた事業でした。

JICA事業としては一旦区切りとなりますが、TICOとしては今後も引き続き現地での活動を見守り、できる限りサポートを続けて参ります。

派遣・招へい研修一覧

2022	派遣	①10月8日～17日 BTB州内の病院や救急車の調査 (新田恭子)	
2023	派遣	②1月21日～29日 ベースライン調査 (医師・看護師対象のプレテスト実施) (高磯甫隆・新田恭子)	
		③4月23日～30日 BLS研修など (高磯甫隆・新田恭子)	
		④8月20日～26日 日本のERと看護師、病院前救護 (車外救出) など (三橋乙矢・一二三 淳・松本哲也・新田恭子)	
2024	招へい	①11月5日～19日 第1回本邦研修 州保健局長、医師、看護師、計7名	
	派遣	⑤1月18日～23日 当事業の意義、観察の重要性など (渡部 豪・新田恭子)	
	派遣	⑥3月20日～28日 インストラクターのスパイリエン州へのバスツアー (先進事例見学)、応急処置法ワークショップ実施者研修 (新田恭子)	
	招へい	②6月29日～7月14日 第2回本邦研修 医師、看護師、計7名	
	派遣	⑦8月13日～21日 BLSと病院前救護 (来日したインストラクターが指導補助) (三橋乙矢・一二三 淳・飯田智志・新田恭子)	
2025	派遣	⑧10月26日～11月3日 小児の救急、腎疾患など、動画教材の撮影と監督 (上谷 遼・宮坂 嶺・新田恭子)	
	派遣	⑨1月7日～14日 FASTなどエコーの使い方、小児の呼吸管理など (田淵幸一郎・上谷 遼・新田恭子)	
	派遣	⑩2月23日～3月3日 スパイリエン州へのバスツアー、研修見学と両州インストラクターの意見交換会 (新田恭子)	
	招へい	③3月9日～26日 第3回本邦研修 医師、看護師、計6名	
	派遣	⑪5月19日～29日 ポストテスト実施、インストラクターによるテスト実施の指導、様々な救急対応について (高磯甫隆・新田恭子)	
	派遣	⑫7月5日～12日 インストラクターへ指導ポイントを解説→インストラクターによる講義と実習→実施後のフィードバック (田淵幸一郎・一二三 淳・松本哲也・新田恭子)	
		⑬8月16日～25日 インストラクターの心得、テキスト等の使い方 (渡部 豪・新田恭子)	

① 救急車内

① 救急出動がない間の日頃の自主トレーニングを見せてくれた様子

⑧ 動画撮影の様子

⑫ 実施後のフィードバック

最終報告会を開催します

開催日時 8月31日(日)
午前10時30分～正午

場所 高松市市民活動センター会議室2
高松市常磐町1丁目3-1 (瓦町FLAG8階)

定員 30人程度 (会場参加)

お申込み

右のQRコード申込フォームからお申し込みください。(当日参加も可)
(開けない場合は、<https://logoform.jp/f/y2lwc>)
又は、高松市協働コミュニティ推進課
TEL:087-839-2277 まで

参加
無料

オンライン
参加あり



救える命を救う

カンボジア国救急医療に係わる研修コース・試験制度の構築と市民への応急処置法の普及事業

JICA草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)【事業期間:2022年9月~2025年9月】提案:高松市、実施団体:NPO法人TICO

① 医療従事者対象の救急医療技術の向上

カンボジアの救急医療の実態

カンボジアの特に地方では救急医療に関する技術研修の機会がほぼなく、適切な処置ができずに救えるはずの命が救えていない状況でした。内戦が終結した1990年代後半から急成長し、今や首都プノンペンは大都会です。交通量も増え、経済活動が活発化する中、救急医療のニーズも急増していますが、受け入れる医療機関の発展は遅れをとっています。その原因のひとつに研修のための資機材(人形など)がない、また

教える人材やカンボジア語で書かれたテキストがないことが挙げられます。

カンボジアでは病院に救急車が配備されており、出動は運転手と看護師の2名が基本です。交通事故とお産以外の搬送は有料のため、多くの人はバイクなどで家族が患者を搬送します。病院から救急車を呼んでも、救急車は“急いで運ぶ車”で必要な観察や処置は行われていません。

プロジェクト目標

救急医療活動を指導・実践できる医療従事者を養成

高価な医療機器がなくても救命率を上げるためには基本の徹底が必要です。その基本を定着させるためには、なぜその手技が必要で有効かを理解することも重要です。救急医療の技術向上のための研修を実施しながら、カンボジアの事情にあったテキストやトレーニングコースをつくり、カンボジア人自身で継続的に技術向上ができるような仕組みを構築しました。またそのインストラクターとなる人材も育成しました。



高松市消防局での実習



救急車同乗実習



香川・岡山の病院で研修



講師を派遣した研修



育成したインストラクターが指導



試験制度を構築 インストラクターが試行

② 住民向けの応急処置法の普及

カンボジアの民間療法の実態

一般市民の中にはいまだに「切り傷に魚醤、塩、ガソリン、噛みタバコ。火傷には歯磨き粉、牛糞」など、決して推奨できない処置法を信じ、実践している人が少なくありません。特に地方

でその傾向は根強く、緊急時に自ら命を守る知識や術を持つことは重要です。また、近年生活習慣病に関連する疾病の増加が著しく、その予防に関する意識が低いことも課題です。

プロジェクト目標

応急処置法ハンドブックの作成、配布とワークショップの開催

応急処置についてイラストを多用したわかりやすいハンドブックを作成し、ワークショップで住民に配布。いざという時に自分たちで正しく対処できるように知識を広げることが目的としています。また救急車を呼ぶための電話番号一覧も掲載しました。



▲作成、配布した応急処置法ハンドブック



◀各地で開催したワークショップの様子

2025年7月派遣の報告 教える自分も得ることが多かった国際協力

松本 哲也
まつもと てつや
高松市消防局 救急救命士



2回目となる今回の派遣では、インストラクターが「救急研修コースを自ら企画・実施し、継続的に開催できる仕組みを構築する」「現地指導者に教育指導スキルや評価手法を伝え、習得してもらう」ことを目的に研修を実施しました。

【研修内容：成人教育の理論、指導技法の講義】

講義後のロールプレイングで講師が、受講者①「自信はないが一言助けがあれば実施できる」、受講者②「自信満々だが要所でミスをする」を演じ、質問対応の難しさを体感してもらいました。

成人教育のテクニックの理解とともに、実際の指導場面で起こりうる状況への対応力を磨きました。適切なフィードバックの仕方や指導時に話し過ぎず体験させることが大切だと伝えました。

【現地の変化と成果】

以前は「救急車＝単なる搬送車両」が、今回の視察で救急隊員が2～3名体制となり、脊椎固定具（スコープストレッチャー・ネックカラー等）、バイタル測定器具、心電図モニターなどが積載されている状態に改善していました。



軽症の患者でも、手を抜くことなく繰り返し観察。潜んでいるかもしれない病因を見逃さない、その丁寧さに驚くカンボジア医師

現場で患者観察後、救急車が所属する病院に連絡し、処置困難であれば上位の病院へ搬送していました。病院前救護活動により、防ぎえる外傷死が減少していくと感じました。

【感想】

今回、カンボジアの歴史（ポル・ポト時代の虐殺や難民体験）を当事者から直接聞く機会を得て、異文化理解を深める貴重な経験となりました。

来日研修では救急車の同乗実習で、「傷病者及び家族への対応の丁寧さ」「観察の質」を高く評価されたことで、隊内のモチベーション向上につながりました。また、現地では受講者が休憩時間も積極的に質問する姿に刺激を受けました。

この活動を通じ、教えた自分も学びを得られていることに気づきました。また、多くの資器材に恵まれていることを再認識し、最大限に活用したいと感じました。

今後も現地の自立的な研修運営を見守り、私自身もより一層研鑽を重ねてまいります。



一二三 淳
ひふみ じゅん
高松市消防局 消防防災課 主幹

3年間の事業を振り返って

令和5年から本年に至る3年間、現地及び来日研修に携わり、異文化地域の医療従事者に対し、病院前救護活動に関する技術支援を行うという、大変貴重な経験をさせていただきました。

現地で行われている外傷に対する病院前救護活動の改善を図るため、必要な知識や技術の習得を目的とした指導を行う中、現地の医療資源の状況では実施が困難なこともありましたが、話し合うことで言語や文化が異なっても解決に至ることができたという経験は、私にとって大きな学びとなりました。

また、現地の医療従事者が、現地や来日して実施した研修で学び、それを基に自らが取り組むべきビジョンを明確にし、実践した結果、多くのインストラクターが誕生し、また、救急車の整備が行われたなど、成果として表れたものと思います。

カンボジアは、日本と比較し医療資源が不足しているなど、様々な課題があると考えますが、充実した病院前救護活動を実施するために、可能なところから体制を整えていただきたいと思います。そして、今後も現地のインストラクターの皆さんには現地の文化や状況に合わせた研鑽を続けていただき、良きスタッフを育てるとともに、更なる質の向上を図っていただきたいと思います。

帰国後、高松市大西市長を表敬訪問し渡航の報告をしました



大西市長からのコメント

3年間、継続的に研修を行うことで、現地の救急医療知識が格段に向上していることを実感したことに加え、職員にとっても指導をする中で新たな気づきやプライドの醸成につながるなど良い経験になったと思います。

関係者の皆様に深く敬意と感謝の意を表しますとともに、本事業が、今後のカンボジア国における救急医療分野の強化につながりますよう、心から祈念申し上げます。

ザンビアでの 心臓血管外科手術技術移転事業

ザンビアでは心臓外科手術ができる現地医師がいなかったため、他国では救える心臓疾患患者の命が救えない状況でした。2017年にザンビア大学教育病院(UTH)院長より「心臓外科手術ができるザンビア人専門家の育成」という要請を受け、同年8月より継続的な指導を開始しました。ザンビア初の、ザンビア人医師によるザンビア人患者に対する心臓血管外科手術を実現してきました。

「年間50例の心臓血管外科手術をザンビア人だけで施行できるようになる」という目標のもと、ザンビアに医師、看護師、臨床工学技師といった専門家を派遣し、現地スタッフの手術、術後管理などの業務と一緒に遂行することで技術移転を行っています。また、これまで3回の本邦研修も実施しました。

当初はザンビア大学教育病院での活動でしたが、第8回からNational Heart Hospital(NHH:国立心臓病院)へと活動拠点を移し、臨床実践をしています。

*** 当事業は皆さまからのご寄付と、米国エドワーズライフサイエンス財団及び風に立つライオン基金の助成金で活動し、心臓疾患で苦しむ人たちの命を救っています。引き続き、皆さまからのご支援をよろしくお願いいたします。**

▶ご寄付は最終ページ参照

昨年からの活動

2024年8月19日～30日

7名の手術(弁置換術5例、先天性心疾患2例)

患者さんが安心して手術が受けられるよう、安全面に重きを置いた活動を目指しました。具体的には、手術手技の向上、手術時間の短縮、正確なモニタリング、人工心肺の安全性向上などです。

手術を経験していくことで技術は向上し、手術時間も少しずつ早く、安全になってきています。



2025年4月6日～12日

5名の手術

毎回の手術後に振り返りを行っています。独自の評価フォームを用いて、手術時間、職種別に良かった点・課題点、そして10段階でスコアを記入し、ザンビアチームにフィードバックを行います。心臓手術は多職種のチームワークが鍵です。このフィードバックを毎回行い、各メンバーで考えることで格段にチーム力が向上しています。



弁置換術を受けられた患者さん。目覚ましく回復され一般病棟に移った日の写真。1年前から体調が優れず、大学病院から紹介され手術に至りました。9人兄弟の7番目で、お母様も大変心配されていました。元気になって、今まで出来なかったことに色々挑戦したいと素敵な笑顔で話してくれました▶



▶7歳女兒の患者さん。一般病棟移られ、お母さんと一緒にリラックス



▲2025年4月 術後のリハビリ

2025年8月の第15回派遣の様子はTICOのFacebookでご覧いただけます

ザンビア 今世紀最悪の干ばつ



南部アフリカ地域では、2023年末からの雨期の降水量が例年の20%程度に留まった影響で食糧危機に見舞われ、2,000万人以上の子どもが栄養失調に陥っていました。干ばつに加え、昨今の国際情勢を背景として世界的に燃料費や肥料価格が値上がりし、食料価格も高騰したことも原因です。

ザンビアでも全116地区のうち84地区で農作物の98%が不作となりました。100%という地域もあり、政府は国家災害を宣言し、緊急人道支援を訴えました。

そこでTICOでは、限られた予算で如何に効果的に対策ができるかを話し合い、現地NGOの協力を得て、学校給食というアプローチで子どもたちの栄養失調を解消する取り組みを実施しました。また、同地域には水源がなく、3km離れた井戸まで毎日水汲みに言う必要があったため、井戸掘削と手動ポンプの設置を支援しました。

学校給食プログラム 子どもたちに食料を!



PTAのメンバーが手伝っているところ

現地NGOコセブカ・コミュニティ財団(KCF)に実施を委託し、2024年9月1日から、低所得者が多く通う、ムタバ・コミュニティスクールの生徒(118名、ピーク時は130人)の生徒に毎日食事を提供しました。内容は、子どもの発育と発達に必要なタンパク質、炭水化物、エネルギーを摂取できることから、ピーナッツバターと砂糖を混ぜたミールライス(挽いたトウモロコシの粉)となりました。食事はPTAが交代で調理し、地域住民の協力も得ました。

給食支援が始まる前まで、干ばつによる食糧不足と収入の不安のために、出席率の低下と退学が相次いでいましたが、給食が始まって以降、学期あたり35人以上の欠席が2学期の間で5人だけと出席率の著しい向上や退学者の復学もありました。また成績も向上し、評価が前学期の55%から70%へと15%向上していました。

現地で支援を実施したNGOからは、「この給食プログラムは、飢餓状態の中でも学習を継続することに貢献しただけでなく、命を失っていたかもしれない子どもたちが救われたのです。災難が回避されたことへの地域住民の感謝の気持ちを実感しています」と報告がありました。



給食支援に加えて学校に井戸完成!

給食支援をし始めたころ、水源がないため学校から3キロ離れた井戸まで毎日水汲みに行くことを受け、TICOではさらに井戸を提供することを決定しました。

コミュニティの井戸は、地域住民の生活用水でもあり、家畜の水源でもあるため、大変混雑していました。

井戸は地下深くから汲み上げられるため、清らかな水です。今後は学校側が修理点検など管理を行い、生徒と地域の皆様に活用していただきます。

学校及びご父兄、そして地域の皆様からも多くの感謝のお言葉を頂戴しました。



よく見かける“家族全員乗り”

カンボジア事業国内調整員の私は現地に渡航することは基本的にはないのですが、今回7月に視察団として一般市民枠で同行いたしました。アジア方面への旅行の経験はなく、もちろんカンボジアも初めてです。外国旅行の醍醐味の一つは、文化や習慣の違いを経験することですが、今回の旅行で一番驚いたエピソードをひとつ。

アンコールワットからホテルへの帰り道、私たちが乗った車が追い越したのは3人乗りの原付バイクでした。日本では3人乗りというだけでもアウトですが、こちらではごくフツー。6人乗りなどというのも見かけます。驚いたのは誰が運転していたかです。その顔にはあどけなさがあり、どう見ても小学生。後ろの二人はさらに幼い見た目で3人とも白いシャツに黒いズボン。制服なのでしょう。つまりお兄ちゃんが弟2人をバイクに乗せて通学してるというわけです。

カンボジアは自動車免許は日本と同じ18歳からですが、原付バイクはなんと免許なしで乗れるのだそうです。現地の人は、「だから小学生でもいいんだよ!」と言っていました。調べたらバイクの運転は15歳以上からと一応決まりはあるようです。

お兄ちゃんも弟2人の命を預かっているという自覚からか、緊張して運転しているように見えました。学校が遠すぎたり、親も仕事が忙しくて送迎ができないなど事情はあるのかもしれませんが、さすがにこれは危な過ぎてびっくりしました。

交通安全に対する意識がもっと高まらないと、いくら救急医療が発達しても追いつかないでしょう。とりあえず今はあの兄弟が毎日無事におうちに帰れますように、と祈るばかりです。

TICOカンボジア事業国内調整員・Face to Faceレイアウトデザイナー／竹内淳子

● TICOの活動を応援してください! ●

TICO 会員募集	会員となって資金面からTICOの活動をサポートして くださる方を募集しています。	ご寄付	皆さまからのご寄付は、支援活動・団体の 運営を継続するための大きな支えです。 ご支援をよろしくお願い申し上げます。
年会費	賛助会員 個人 12,000円 ※通常は賛助会員で 学生 6,000円 ご入会をお願いして 団体 15,000円 います。総会での議決権 正会員 12,000円 を持つ正会員を希望 される方は事前にご連 絡ください。	銀行振込	銀行名 楽天銀行 支店名 第一営業支店(支店番号251) 口座種類 普通 口座番号 7657541 口座名義 特定非営利活動法人TICO ※カナ入力の場合は、トクヒ)テイコ
ご入会方法	ホームページから ①ご入会フォームにお名前等をご入力ください。 ②お支払い方法の選択:クレジットカード継続決済と ゆうちょ銀行自動引き落としのいずれかを選択し、 手続きに進んでください。 インターネットをご利用でない方 年会費を郵便局備え付けの郵便振替用紙で、次の 講座へお支払いください。 ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号を通信欄に お書き添えください。 口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO	郵便振替	口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO
		PayPay	090-8662-9737
		クレジットカード	ホームページをご覧ください。

※会員の方には、TICOのニュースレター「Face to Face」を
毎月お送りいたします。

特定非営利活動法人 TICO事務局 〒 779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 120-4

電話 0883-42-2271 (平日 9:00~17:00)
 メール info@tico.or.jp
 ホームページ www.tico.or.jp

フェイスブック www.facebook.com/ticohq
 インスタグラム @ticojapan



TICO

TICOニュースレター Face to Face 第62号

2025年8月発行 発行人:渡部 豪